

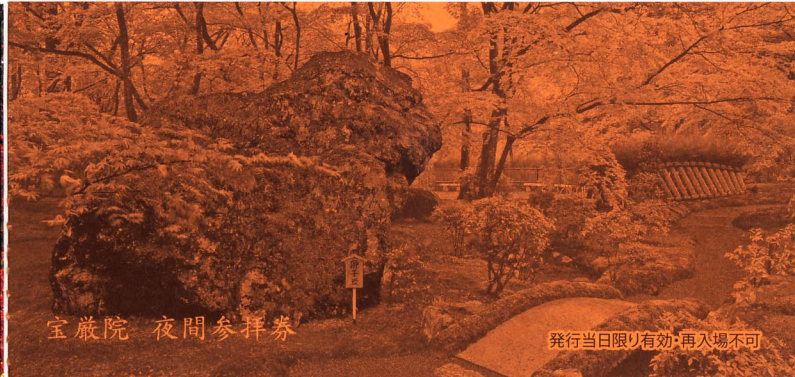


京都  
嵐山

大本山天龍寺塔頭

宝蔵院

Hogonin Temple



宝蔵院 夜間参拝券

発行当日限り有効・再入場不可



大本山天龍寺塔頭

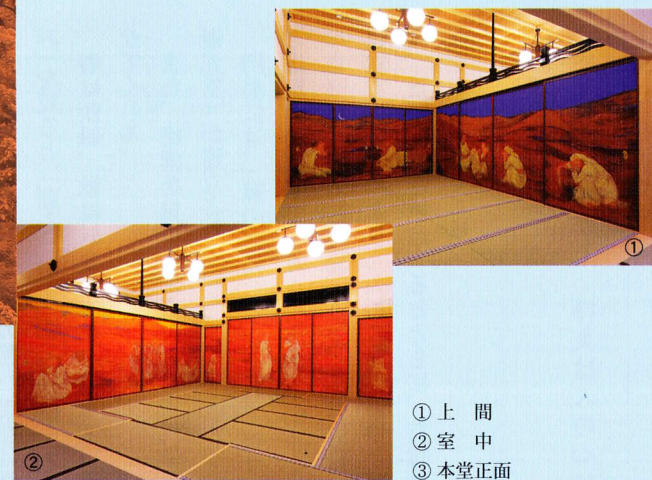
宝蔵院

ほう こん いん

〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町36

TEL 075(861)0091 FAX 075(861)0034

<http://www.hogonin.jp/>



① 上 間  
② 室 中  
③ 本堂正面



④ 嵐山羅漢の杜  
⑤ 永代供養堂「無礙光堂」

大亀山宝蔵院は臨済宗大本山天龍寺の塔頭寺院で、寛正二年（一四六二）室町幕府の管領細川頼之公により天龍寺開山夢窓国師の第三世法孫聖仲永光禪師を開山に迎え創建された。

創建時は、京都市上京区にあり、広大な敷地を有した寺院であった。応仁の乱により焼失したが再建され、その後変遷を経て天龍寺塔頭弘源寺境内に移転の後、現在地（旧塔頭寺院跡）に移転再興された。

本堂には、本尊十一面観世音菩薩、脇仏には三十三体の観世音菩薩、足利尊氏が信仰したと寺伝にある地藏菩薩が祀られており、西国三十三所巡りに等しい功德があると伝えられている。

また、田村能里子画伯筆による『風河燦燦 三三自在』と題された襖絵五十八面がある。

「獅子吼の庭」——この庭園は、室町時代に中国に二度渡った禅僧策彦周良禪師によって作庭され、嵐山を巧みに取り入れた借景回遊式庭園で、江戸時代に京都の名所名園を収録した『都林泉名勝図会』にも収録された名園である。獅子吼とは「仏が説法する」の意味で、庭園内を散策し、鳥の声、風の音を聴くことによって人生の真理、正道を肌で感じる。これを「無言の説法」というが、心が大変癒される庭である。

庭園内には須弥山を現す築山、その前に人生を思わせる「苦海（空池）」が広がり、対岸には「雲上三尊石」があり、苦海の中には「此岸」より「彼岸」に渡る舟石、仏の元に渡る獣石が配置されている。その左奥には、中国黄河の上流に有ると称される「登龍門」より「龍門の瀧」があり、その瀧壺には鯉魚石を配し、修行の厳しさを表現している。また策彦禪師が命名された「獅子岩」「碧岩」や「響岩」といった巨岩を身近に観ることができ、回遊路の途中に「破岩の松」（現在は株と根のみ）を見ると「願心」の大切さを痛感する。春は新緑、秋は紅葉と一年を通して目を楽しませてくれる。

また、庭園を見下ろす高台には永代供養堂「無礙光堂」が建立されている。

門前には、「嵐山羅漢」が祀られており、「羅漢」とは釈尊の弟子で崇高な修行者「悟りを得た人」を意味する。「五百羅漢」を天下の景勝地・嵐山に建立することにより、人類の安心立命と嵐山の守護、景観保全を祈念するとともに、有縁無縁の菩提を弔うものである。

夢窓国師道歌

『山水には得失なし 得失は人の心にあり』



① 新緑の獅子吼の庭  
② 新緑の獅子吼の庭  
③ 春の獅子吼の庭／桜